

プロジェクトVでは、

防災でできる地域貢献について、近隣高校と共に専門家から学び、避難所運営ゲームをとおして交流を行いました。。

◎令和7年12月10日(水)八日市南高等学校、滋賀学園高等学校、能登川高等学校

・本校生徒会執行部・本校生徒希望者の合同防災研修 50名

場所:八日市高等学校 3棟 視聴覚室

内容:「避難所運営ゲーム HUG」講師 日本赤十字社 滋賀県支部より10名

代表 中村 準一 氏

各グループでのワークショップ形式で実施しました。



感想

☆カードゲームを通して、災害が起こった時の避難所の設営・運営方法を考え、実践することができとても良い経験になりました。カードゲームは、指導者の方から絶え間なくカードが配られ、避難してきた人の状態・要望をできるだけ考慮し、どこにどのように分類するか瞬時に判断することが難しく苦戦しました。しかし、実際に災害が起こったら一度に大勢の人々が避難所に避難して来ることになるので、より判断力や決断力が必要になります。カードは災害時に実際にあった内容が書かれていると知り、災害の悲惨さや運営の難しさを感じました。

また、案内板の書き方や障害の有無・年齢・家族構成に配慮して人々进行分类する難しさを感じる一方で、各グループそれぞれに分類の工夫がみられ、新たな気付きを得ることもできました。グループワークをとおし、他校の生徒と活発に意見を交流し、メンバーと協力して発表することで、自分にはなかった考えを知り、自分の考えを深める良い機会になりました。

☆防災についての考えを自分の中で真剣に考え、これから起こる災害について事前に備えておく心構えを持つことができました。始めに赤十字の方からこれまでに起こった災害の場面において、どのように避難所を運営してきたのか、またどのような方々が避難してきたかについてこれまでの経験をもとにお話ししていただきました。このことから、災害の恐ろしさと避難所を運営することの難しさについて詳しく学ぶことができました。滋賀県は比較的災害が少ないため、私の災害についての経験もないのですが、実際の場面の緊迫した状況を動画をとおして学ぶことができました。

避難所を運営する HUG ゲームでは、効率的に多くの方を各場所に避難させることの難しさを実感しました。避難してくる方々の中には、小さいお子さんや高齢者・車いすの方や病気の方など様々な方がいて、それぞれの方に合った避難する場所を提供することがとても難しかったです。避難所を運営する際には、各々が役割を全うし、現状を上手く共有しあうことが大切だと思いました。私は災害に備え、避難場所の確認や避難用バックの用意など、自分ができることをまず行っていきたいと思います。また、今回の貴重な経験で学んだことを多くの方に知らせていきたいと思います。